



方広寺図（モンターヌス『東インド会社遣日使節紀行』1669年版所収）

オランダ人は、江戸参府の帰路に京都で数日間観光することが、慣例により許されていた。観光スポットとして、三十三間堂や清水寺と共に、方広寺が定番であった。方広寺の大仏は、特にオランダ人の印象に残ったようである。本図は1649年のフリシウスの使節が方広寺を訪れた場面を描いたものである。来日経験のないオランダの絵描きは、日記に記載されている情報を元に想像力を働かせて、建物や仏像の形を描いている。当時の大仏殿は京都の中でも目立つ壮大な建物で、その中に納められていた大仏は日本三大大仏の一つであったが、現存していない。

日文研所蔵外書（解説：フレデリック・クレインズ准教授）